

## 第2章 博物館における友の会及びボランティアの状況について — 博物館活動の担い手の多様化 —

濱田 浄人 (国立歴史民俗博物館)

### 概要

友の会のある割合は前回調査より増加している。友の会は多様な類型があり、今回初めて類型について統計分析を行ったところ、友の会のある小規模館では、博物館支援型の友の会の割合が高く、規模が大きいほど、サービス提供型の友の会制度の割合が高くなることが明らかとなった。ボランティアについても前回調査より増加している。導入割合は、友の会以上に高い。これらの数値からも、博物館活動の担い手が多様化している状況が見えてくる。

**キーワード** 博物館経営, 市民参加, ボランティア, 友の会

### 1 はじめに

本稿では、2013（平成25）年度に、日本博物館協会と共同で実施した博物館総合調査のうち、友の会及びボランティアについての集計・分析結果について報告する。

### 2 回答館の概要

今回の調査の回答館数は2,258館であった。回答館の館種別、設置者別状況は表1、表2の通りである。

表1 回答館（館種別）

	館数	割合
総合	109	4.8%
郷土	284	12.6%
美術	471	20.9%
歴史	1,050	46.5%
自然史	93	4.1%
理工	103	4.6%
動物園	43	1.9%
水族館	53	2.3%
植物園	40	1.8%
動水植	12	0.5%
計	2,258	

表2 回答館（設置者別）

	館数	割合
国立	56	2.5%
都道府県立	239	10.6%
市立	1,183	52.4%
町村立	304	13.5%
公益法人等	335	14.8%
会社個人等	141	6.2%
計	2,258	

館種の分類は、日本博物館協会による分類を踏襲している。一方、設置者については、市町村合併等による移動もあることから、設置条例の有無等含め確認を行った。また、一般財団、一般社団、宗教法人、学校法人、社会福祉法人、NPO法人は「公益法人等」に分類した。国が設立した独立行政法人は「国立」、県が設立した独立行政法人は「都道府県立」に分類した。国立大学は「国立」、県立大学は「都道府県立」に分類した。指定都市は「市立」に分類した。一部事務組合は、構成する地方自治体のうち規模の大きなものに分類した。

### 3 友の会について

#### (1) 友の会の有無

本調査では「友の会」を「博物館を頻繁に利用する者を対象に、登録利用者（会員）として施設利用の優遇や情報提供等を行う制度」と定義して調査を行った。

館種別、設置者別、地域別、常勤職員数別の状況は表3～6の通りである。全体では友の会があるのは23.7%であり、2008年度の博物館総合調査の結果の22.2%から1.5ポイント上昇している。館種別に見ると、目立ったところでは「自然史」が5.0ポイント、「歴史」「理工」が3.2ポイント上昇している。

表3 友の会の有無（館種別）

	N=	ある	ない	無回答
総合	109	37.6%	62.4%	0.0%
郷土	284	13.0%	84.2%	2.8%
美術	471	36.5%	60.1%	3.4%
歴史	1,050	19.4%	78.2%	2.4%
自然史	93	31.2%	63.4%	5.4%
理工	103	21.4%	77.7%	1.0%
動物園	43	34.9%	60.5%	4.7%
水族館	53	9.4%	81.1%	9.4%
植物園	40	17.5%	75.0%	7.5%
動水植	12	25.0%	75.0%	0.0%
全体	2,258	23.7%	73.4%	2.9%

表4 友の会の有無（設置者別）

	N=	ある	ない	無回答
国立	58	26.8%	71.4%	5.2%
都道府県立	239	42.3%	55.6%	2.1%
市立	1,183	22.5%	75.1%	2.5%
町村立	304	15.5%	81.6%	3.0%
公益法人等	335	23.3%	72.8%	3.9%
会社個人等	141	19.9%	74.5%	5.7%
全体	2,258	23.7%	73.4%	2.9%

表5 友の会の有無（地域別）

	N=	ある	ない	無回答
北海道	161	24.2%	72.7%	3.1%
東北	259	20.1%	76.4%	3.5%
関東	502	23.3%	74.7%	2.0%
中部	560	27.0%	69.6%	3.4%
近畿	287	26.1%	71.4%	2.4%
中国	169	26.0%	68.6%	5.3%
四国	109	20.2%	78.0%	1.8%
九州	211	16.6%	81.5%	1.9%
全体	2,258	23.7%	73.4%	2.9%

表6 友の会の有無（常勤職員数別）

	N=	ある	ない	無回答
0人	180	7.8%	89.4%	2.8%
1人	259	14.3%	83.0%	2.7%
2～3人	546	19.4%	78.2%	2.4%
4～6人	486	26.7%	71.6%	1.6%
7～10人	255	29.8%	68.6%	1.6%
11～20人	217	40.1%	57.1%	2.8%
21人～	136	44.1%	53.7%	2.2%
計	2,079	24.5%	73.3%	2.2%

館種別では、「総合」「美術」「自然史」「動物園」において友の会のある博物館の割合が高い。一方、「郷土」「歴史」「理工」は比較的割合が低い。

今回初めて、常勤職員数別の集計を行った。なお、常勤職員は「館において定めている勤務時間をフルに勤務する職員」と定義し、委託業者の職員、臨時職員、派遣職員は含まないものとして調査を行ったもので、館長、副館長、学芸系職員、事務・管理系職員の数を合算した。常勤職員数が多いほど、友の会の存在する割合は高くなった。

「郷土」「歴史」で、友の会のある博物館の割合が比較的低いのは、小規模館が多いことによるものと考えられる。

## (2) 友の会の類型

友の会についての本調査による定義は、かなり幅広にさまざまな種類の組織・制度を捕捉することを目的としたものであり、その内実は多様である。実際、「友の会」という名称を持つものに限っても、主としてサービスを博物館側が提供するとともに運営も博物館が主体的に行っているものから、友の会が自主的な運営組織を持ち、博物館と協働する形でサービスを創造するものまで多様である。

それらの姿を少しでも明らかにするため、本調査では、友の会の類型について「1 会員が博物館を利活用して自主的に学習活動を進めるための組織（以下「自主的な学習」とする。）」「2 会員が博物館の事業を会員の労力によって支援する組織（以下「博物館の事業支援」とする。）」「3 博物館が実施する教育普及事業に系統的に参加するための登録制度（以下「教育普及事業参加」とする。）」「4 博物館を継続的に利用してもらうための登録制度（以下「継続的に利用」とする。）」の4類型を提示し、各博物館の状況がどの類型に最も近いか尋ねた。その結果は表7～10の通りである。

表7 友の会の類型（館種別）

	N=	自主的な学習	博物館の事業支援	教育普及事業参加	継続的に利用	無回答
総合	41	53.7%	29.3%	4.9%	12.2%	0.0%
郷土	37	54.1%	29.7%	8.1%	5.4%	2.7%
美術	172	21.5%	18.6%	3.5%	53.5%	2.9%
歴史	204	36.8%	21.6%	7.4%	30.9%	3.4%
自然史	29	41.4%	27.6%	10.3%	20.7%	0.0%
理工	22	18.2%	9.1%	4.5%	59.1%	9.1%
動物園	15	13.3%	0.0%	33.3%	46.7%	6.7%
水族館	5	20.0%	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%
植物園	7	14.3%	28.6%	0.0%	57.1%	0.0%
動水植	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	535	33.1%	20.7%	6.5%	36.6%	3.0%

表8 友の会の類型（設置者別）

	N=	自主的な学習	博物館の事業支援	教育普及事業参加	継続的に利用	無回答
国立	15	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%
都道府県立	101	32.7%	21.8%	7.9%	36.6%	1.0%
市立	266	42.1%	21.8%	6.4%	26.7%	3.0%
町村立	47	23.4%	31.9%	8.5%	29.8%	6.4%
公益法人等	78	19.2%	16.7%	6.4%	52.6%	5.1%
会社個人等	28	10.7%	0.0%	3.6%	85.7%	0.0%
計	535	33.1%	20.7%	6.5%	36.6%	3.0%

表9 友の会の類型（地域別）

	N=	自主的な学習	博物館の事業支援	教育普及事業参加	継続的に利用	無回答
北海道	39	33.3%	48.7%	7.7%	10.3%	0.0%
東北	52	26.9%	25.0%	7.7%	34.6%	5.8%
関東	117	41.9%	12.0%	5.1%	35.0%	6.0%
中部	151	31.1%	24.5%	7.3%	35.8%	1.3%
近畿	75	37.3%	10.7%	6.7%	40.0%	5.3%
中国	44	25.0%	22.7%	4.5%	47.7%	0.0%
四国	22	13.6%	13.6%	13.6%	59.1%	0.0%
九州	35	34.3%	20.0%	2.9%	42.9%	0.0%
計	535	33.1%	20.7%	6.5%	36.6%	3.0%

表10 友の会の類型（常勤職員数別）

	N=	自主的な学習	博物館の事業支援	教育普及事業参加	継続的に利用	無回答
0人	14	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
1人	37	32.4%	32.4%	2.7%	27.0%	5.4%
2～3人	106	30.2%	31.1%	8.5%	25.5%	4.7%
4～6人	130	35.4%	19.2%	6.9%	36.9%	1.5%
7～10人	76	35.5%	13.2%	3.9%	43.4%	3.9%
11～20人	87	32.2%	19.5%	3.4%	42.5%	2.3%
21人～	60	28.3%	6.7%	10.0%	53.3%	1.7%
計	510	33.3%	21.0%	6.1%	36.7%	2.9%

館種別には、「総合」「郷土」「自然史」等において、自主的に学習活動を進めるための組織の割合が高い。一方、「美術」「理工」「動物園」等では、博物館を継続的に利用してもらうための制度の割合が高い。

設置者別に見ると、公益法人等や会社個人等の私立博物館では、「継続的に利用」の割合が顕著に高いことから、友の会という形での入館等のサービス提供を重視している館が多いことが推測できる。

常勤職員数別に見ると、常勤職員数が0人の館では、「自主的な学習」の割合が多い。また、常勤職員数が3人以下の館では「博物館の事業支援」の割合が多いが、4人以上の館では「継続的に利用」の割合が多くなる。職員数が少ない館では博物館のサポーター的な組織、職員数が多くなるとサービス提供型の制度となる傾向が明らかとなった。

地域別に見ると、北海道では「博物館の事業支援」の割合が、他地域に比して高い傾向がある。

### (3) 友の会の運営

類型と密接に関係するが、友の会の運営にあたり、友の会会員が主体となっているか、館が主体となっているか、あるいは双方で運営しているかを確認した。その結果は表11～14の通りである。

表11 友の会の運営（館種別）

	N=	会員主体	館主体	双方	無回答
総合	41	29.3%	46.3%	24.4%	0.0%
郷土	37	29.7%	45.9%	24.3%	0.0%
美術	172	24.4%	63.4%	11.6%	0.6%
歴史	204	27.9%	55.4%	14.7%	2.0%
自然史	29	31.0%	44.8%	24.1%	0.0%
理工	22	13.6%	77.3%	4.5%	4.5%
動物園	15	0.0%	86.7%	13.3%	0.0%
水族館	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
植物園	7	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%
動水植	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
計	535	25.4%	58.1%	15.3%	1.1%

表12 友の会の運営（設置者別）

	N=	会員主体	館主体	双方	無回答
国立	15	33.3%	53.3%	13.3%	0.0%
都道府県立	101	35.6%	51.5%	11.9%	1.0%
市立	266	29.7%	51.1%	18.4%	0.8%
町村立	47	25.5%	48.9%	23.4%	2.1%
公益法人等	78	3.8%	87.2%	6.4%	2.6%
会社個人等	28	3.6%	85.7%	10.7%	0.0%
計	535	25.4%	58.1%	15.3%	1.1%

表13 友の会の運営（地域別）

	N=	会員主体	館主体	双方	無回答
北海道	39	25.6%	48.7%	25.6%	0.0%
東北	52	17.3%	50.0%	28.8%	3.8%
関東	117	35.9%	51.3%	12.0%	0.9%
中部	151	23.2%	60.3%	16.6%	0.0%
近畿	75	24.0%	64.0%	9.3%	2.7%
中国	44	20.5%	70.5%	9.1%	0.0%
四国	22	9.1%	81.8%	9.1%	0.0%
九州	35	31.4%	51.4%	14.3%	2.9%
計	535	25.4%	58.1%	15.3%	1.1%

表14 友の会の運営（常勤職員数別）

	N=	会員主体	館主体	双方	無回答
0人	14	42.9%	35.7%	21.4%	0.0%
1人	37	27.0%	51.4%	21.6%	0.0%
2～3人	106	22.6%	55.7%	19.8%	1.9%
4～6人	130	23.8%	59.2%	15.4%	1.5%
7～10人	76	30.3%	56.6%	11.8%	1.3%
11～20人	87	27.6%	60.9%	10.3%	1.1%
21人～	60	21.7%	65.0%	13.3%	0.0%
計	510	25.7%	57.8%	15.3%	1.2%

全体で見ると、25.4%、すなわち約4分の1は会員が主体となって運営している。

設置者別では、公益法人等や会社個人等の私立博物館の友の会は、館が主体となって運営しているものが大部分である。常勤職員数別では、職員数が多いほど、館が主体となって運営している割合が高くなっている。

次表15でわかるように、会員主体による運営の友の会は「自主的な学習」「博物館の事業支援」が目的の組織という傾向が強いのに対し、館主体の友の会は、「教育普及事業参加」「継続的に利用」といった館側のサービスを受益する制度という傾向が強い。

また、常勤職員数が多い館ほど、館が主体となって運営し、かつ館側のサービスを受益するという傾向を持つ友の会の割合が高いということが明らかとなった。

表15 運営主体別に見た友の会の類型

	N=	自主的な学習	博物館の事業支援	教育普及事業参加	継続的に利用	無回答
会員主体	136	61.8%	30.1%	0.0%	5.9%	2.2%
館主体	311	19.0%	13.2%	10.6%	55.0%	2.3%
双方	82	41.5%	35.4%	2.4%	18.3%	2.4%

#### (4) 友の会の法人格

NPO法人の法人格を持つ友の会があると回答した館は5館（0.9%）、NPO法人以外の法人格を持つという回答は4館（0.7%）、法人格のない任意団体は512館（95.7%）であった（無回答14館）。

NPO法人という回答の中には、館の運営者とは別にNPO法人が友の会を運営している例のほか、そもそも館の運営をNPO法人が指定管理者として受託し、あわせて友の会の運営を行っているということによる回答もあった。また、NPO法人以外の法人格については、いわゆる行政の外郭団体的な財団法人が友の会の運営を担当しているという回答があった。そのため、友の会自体として法人格を持つ割合は数値よりも、実際には少ない。

#### (5) 友の会の活動

友の会の活動について、「1. 博物館の行事への協力」「2. 上記以外の博物館の活動への支援・補助」「3. 会報の発行」「4. 学習会・見学会等（日帰り）の実施」「5. 学習会・見学会等（宿泊を伴うもの）」「6. その他」について、複数回答で伺った結果が表16～19である。

表16 友の会の活動（類型別）※複数回答

	N=	行事への協力	博物館活動支援	会報発行	日帰り学習会	宿泊学習会	その他
自主的な学習	177	58.2%	28.2%	66.1%	83.1%	33.3%	28.2%
博物館の事業支援	111	81.1%	32.4%	53.2%	63.1%	19.8%	32.4%
教育普及事業参加	35	42.9%	14.3%	31.4%	68.6%	20.0%	14.3%
継続的に利用	196	25.0%	16.8%	43.9%	49.5%	17.9%	16.8%
計	519	49.5%	23.9%	52.6%	65.1%	23.7%	23.9%

複数回答ということもあり、「自主的な学習」「博物館の事業支援」といった、より独立性が高く能動的と思われる類型で値が高く、全般的に活動も活発と見ることができる。「教育普及事業参加」の類型の友の会では、行事への協力と日帰り学習会については、比較的値が高い。

表17 友の会の活動（館種別） ※複数回答

	N=	行事への協力	博物館活動支援	会報発行	日帰り学習会	宿泊学習会	その他
総合	41	68.3%	34.1%	75.6%	82.9%	34.1%	34.1%
郷土	37	62.2%	37.8%	45.9%	78.4%	13.5%	37.8%
美術	172	61.0%	22.7%	61.0%	74.4%	24.4%	22.7%
歴史	204	51.5%	19.1%	51.5%	62.7%	20.6%	19.1%
自然史	29	62.1%	34.5%	58.6%	69.0%	31.0%	34.5%
理工	22	31.8%	9.1%	36.4%	59.1%	9.1%	9.1%
動物園	15	6.7%	6.7%	53.3%	73.3%	13.3%	6.7%
水族館	5	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%
植物園	7	57.1%	42.9%	85.7%	71.4%	28.6%	42.9%
動水植	3	33.3%	0.0%	100.0%	66.7%	66.7%	0.0%
計	535	48.6%	23.6%	52.0%	64.5%	23.7%	23.6%

表18 友の会の活動（設置者別） ※複数回答

	N=	行事への協力	博物館活動支援	会報発行	日帰り学習会	宿泊学習会	その他
国立	15	33.3%	33.3%	60.0%	60.0%	33.3%	33.3%
都道府県立	101	51.5%	22.8%	70.3%	76.2%	45.5%	22.8%
市立	266	53.8%	24.8%	57.5%	71.4%	19.2%	24.8%
町村立	47	59.6%	31.9%	36.2%	55.3%	19.1%	31.9%
公益法人等	78	34.6%	19.2%	25.6%	44.9%	15.4%	19.2%
会社個人等	28	17.9%	7.1%	28.6%	28.6%	14.3%	7.1%
計	535	48.6%	23.6%	52.0%	64.5%	23.7%	23.6%

表19 友の会の活動（地域別） ※複数回答

	N=	行事への協力	博物館活動支援	会報発行	日帰り学習会	宿泊学習会	その他
北海道	39	69.2%	35.9%	43.6%	48.7%	28.2%	35.9%
東北	52	44.2%	23.1%	48.1%	63.5%	21.2%	23.1%
関東	117	42.7%	17.1%	54.7%	65.0%	23.1%	17.1%
中部	151	47.0%	24.5%	55.0%	68.2%	23.2%	24.5%
近畿	75	49.3%	24.0%	50.7%	65.3%	26.7%	24.0%
中国	44	50.0%	25.0%	43.2%	61.4%	15.9%	25.0%
四国	22	54.5%	22.7%	59.1%	68.2%	31.8%	22.7%
九州	35	51.4%	25.7%	54.3%	65.7%	25.7%	25.7%
計	535	48.6%	23.6%	52.0%	64.5%	23.7%	23.6%

地域別に見ると、北海道では、行事への協力やその他の博物館の活動支援といった活動をしている割合が高いことが目立つ。

## (6) 友の会の特典

友の会の特典について「1. 常設展への無料・割引入館」「2. 特別（企画）展への無料・割引入館」「3. ミュージアムショップ販売品の割引」「4. レストラン・カフェでの割引」「5. 会報の受領」「6. 館の行事への優先参加」「7. 館の施設・設備の優先利用」「8. その他」があるか尋ねた結果が表 20～23 である。

表20 友の会の特典（館種別） ※複数回答

	N=	入館	特別展	ショップ	レストラン	会報	行事参加	施設利用	その他
総合	41	68.3%	61.0%	41.5%	9.8%	70.7%	26.8%	12.2%	24.4%
郷土	37	56.8%	43.2%	8.1%	2.7%	56.8%	29.7%	18.9%	18.9%
美術	172	84.3%	70.9%	28.5%	10.5%	71.5%	39.5%	18.6%	15.7%
歴史	204	71.1%	59.8%	24.0%	8.8%	60.3%	33.3%	15.7%	13.2%
自然史	29	79.3%	69.0%	34.5%	17.2%	79.3%	27.6%	27.6%	20.7%
理工	22	63.6%	40.9%	36.4%	22.7%	68.2%	54.5%	13.6%	22.7%
動物園	15	86.7%	6.7%	26.7%	26.7%	73.3%	33.3%	6.7%	33.3%
水族館	5	80.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	80.0%	20.0%	40.0%
植物園	7	42.9%	14.3%	14.3%	28.6%	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%
動水植	3	66.7%	0.0%	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%
計	535	74.6%	65.6%	34.4%	19.3%	63.6%	36.8%	15.7%	15.7%

表21 友の会の特典（設置者別） ※複数回答

	N=	入館	特別展	ショップ	レストラン	会報	行事参加	施設利用	その他
国立	15	66.7%	66.7%	66.7%	46.7%	73.3%	40.0%	20.0%	13.3%
都道府県立	101	82.2%	74.3%	54.5%	39.6%	86.1%	33.7%	12.9%	21.8%
市立	266	70.3%	64.3%	22.9%	9.8%	61.7%	30.8%	12.8%	15.8%
町村立	47	68.1%	46.8%	21.3%	6.4%	42.6%	40.4%	25.5%	8.5%
公益法人等	78	83.3%	71.8%	38.5%	21.8%	56.4%	52.6%	20.5%	14.1%
会社個人等	28	78.6%	60.7%	64.3%	35.7%	50.0%	53.6%	21.4%	10.7%
計	535	74.6%	65.6%	34.4%	19.3%	63.6%	36.8%	15.7%	15.7%

表22 友の会の特典（地域別） ※複数回答

	N=	入館	特別展	ショップ	レストラン	会報	行事参加	施設利用	その他
北海道	39	59.0%	38.5%	17.9%	2.6%	53.8%	35.9%	12.8%	7.7%
東北	52	75.0%	71.2%	28.8%	11.5%	63.5%	32.7%	9.6%	7.7%
関東	117	70.9%	62.4%	44.4%	28.2%	61.5%	33.3%	19.7%	19.7%
中部	151	80.1%	68.9%	30.5%	19.9%	66.9%	37.1%	13.9%	15.9%
近畿	75	76.0%	69.3%	37.3%	20.0%	64.0%	42.7%	18.7%	18.7%
中国	44	75.0%	79.5%	25.0%	13.6%	56.8%	36.4%	13.6%	11.4%
四国	22	72.7%	63.6%	45.5%	22.7%	68.2%	59.1%	13.6%	27.3%
九州	35	77.1%	60.0%	42.9%	20.0%	71.4%	28.6%	20.0%	14.3%
計	535	74.6%	65.6%	34.4%	19.3%	63.6%	36.8%	15.7%	15.7%

表23 友の会の特典（常勤職員数別） ※複数回答

	N=	入館	特別展	ショップ	レストラン	会報	行事参加	施設利用	その他
0人	14	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%	50.0%	42.9%	28.6%	21.4%
1人	37	70.3%	64.9%	21.6%	2.7%	43.2%	32.4%	29.7%	2.7%
2～3人	106	93.4%	81.1%	28.3%	17.9%	72.6%	37.7%	13.2%	16.0%
4～6人	130	76.2%	66.2%	23.1%	14.6%	59.2%	30.8%	10.8%	13.1%
7～10人	76	72.4%	71.1%	32.9%	25.0%	71.1%	28.9%	9.2%	15.8%
11～20人	87	88.5%	79.3%	66.7%	34.5%	79.3%	46.0%	14.9%	21.8%
21人～	60	85.0%	63.3%	61.7%	46.7%	78.3%	43.3%	20.0%	25.0%
計	510	74.1%	65.9%	35.5%	20.0%	64.5%	36.9%	15.1%	16.1%

館種別では、常設展や特別展の無料・割引が「総合」「美術」「歴史」「自然史」「動物園」の館種が多い。一方、「理工」系の博物館の友の会では行事への優先参加を特典としている館の割合が高い。

地域別では、やはり北海道が特異的な数値を見せる。常設展や特別展の無料・割引が、他の地域と比較して割合が低い。特典はあまりないが、より能動的に博物館を支えるという友の会像が見えてくる。

常勤職員数別では、ある意味当然だが、規模の大きな博物館ほど、ショップやレストランが存在することから、それらの割引という特典がある割合が高くなっている。

なお、友の会の特典を類型別に見てみたのが次表24である。

表24 友の会の特典（類型別） ※複数回答

	N=	入館	特別展	ショップ	レストラン	会報	行事参加	施設利用	その他
自主的な学習	177	67.8%	57.1%	26.6%	11.9%	63.8%	23.7%	20.9%	22.0%
博物館の事業支援	111	70.3%	65.8%	30.6%	12.6%	65.8%	35.1%	18.9%	9.9%
教育普及事業参加	35	71.4%	45.7%	20.0%	17.1%	65.7%	51.4%	11.4%	20.0%
継続的に利用	196	85.2%	79.1%	47.4%	30.6%	63.8%	45.9%	9.7%	13.8%
計	519	75.1%	66.5%	34.9%	19.5%	64.4%	36.4%	15.6%	16.2%

継続的に利用という類型では、常設展や特別展の無料・割引が高い。

一方、会報という特典については、いずれの類型でも、数値上はほぼ同様である。しかし、類型によって、会報の性格は大きく異なることが予想される。

## (7) 友の会会員数

友の会の会員数については、本調査では、個人会員、家族会員、団体会員、その他の区分による会員と分けて確認しているが、ここでは簡単にそれらを単純合計した値を会員件数として集計してみた。

表25 友の会会員件数（常勤職員数別）

	N=	～10	11～30	31～100	101～300	301～	無回答
0人	14	0.0%	21.4%	42.9%	35.7%	0.0%	0.0%
1人	37	8.1%	10.8%	45.9%	24.3%	5.4%	5.4%
2～3人	106	4.7%	12.3%	38.7%	31.1%	11.3%	1.9%
4～6人	130	3.1%	4.6%	30.8%	35.4%	20.0%	6.2%
7～10人	76	1.3%	0.0%	28.9%	36.8%	27.6%	5.3%
11～20人	87	1.1%	2.3%	5.7%	28.7%	59.8%	2.3%
21人～	60	0.0%	0.0%	8.3%	16.7%	68.3%	6.7%
計	510	2.7%	5.5%	26.7%	30.6%	30.2%	4.3%

表26 友の会会員件数（類型別）

	N=	～10	11～30	31～100	101～300	301～	無回答
自主的な学習	177	4.5%	7.3%	31.6%	27.7%	28.2%	0.6%
博物館の事業支援	111	3.6%	9.0%	33.3%	31.5%	18.9%	3.6%
教育普及事業参加	35	2.9%	5.7%	40.0%	20.0%	25.7%	5.7%
継続的に利用	196	0.5%	2.6%	17.9%	37.2%	37.2%	4.6%
計	519	2.7%	5.8%	27.4%	31.6%	29.5%	3.1%

常勤職員数別では、職員数が多いほど会員件数が多い傾向がある。

友の会の類型別では、「継続的に利用」という類型が、会員件数が多い傾向がある。しかし、「博物館の事業支援」の類型でも、301人以上の会員件数がある館が21館（18.9%）あるなど、活発な活動を行っている友の会があることが見えてくる。

## 4 ボランティアについて

### (1) ボランティアの受け入れ

本調査では、ボランティアを「博物館活動における無償の奉仕活動を行う者」と定義し、「無償には、交通費等参加に要する経費の実費程度を支給する場合を含む」とした。

表27 ボランティアの導入（館種別）

	N=	いる	いない	無回答
総合	109	53.2%	46.8%	0.0%
郷土	284	31.0%	67.3%	1.8%
美術	471	35.2%	60.9%	3.8%
歴史	1,050	34.4%	63.9%	1.7%
自然史	93	46.2%	48.4%	5.4%
理工	103	58.3%	40.8%	1.0%
動物園	43	55.8%	39.5%	4.7%
水族館	53	28.3%	62.3%	9.4%
植物園	40	60.0%	32.5%	7.5%
動水植	12	41.7%	58.3%	0.0%
計	2,258	37.4%	60.1%	2.5%

表28 ボランティアの導入（設置者別）

	N=	いる	いない	無回答
国立	58	42.9%	55.4%	5.2%
都道府県立	239	65.3%	33.1%	1.7%
市立	1,183	42.9%	55.0%	2.1%
町村立	304	23.4%	74.7%	2.0%
公益法人等	335	23.9%	72.5%	3.6%
会社個人等	141	4.3%	89.4%	6.4%
計	2,258	37.4%	60.1%	2.5%

表29 ボランティアの導入（地域別）

	N=	いる	いない	無回答
北海道	161	40.4%	57.8%	1.9%
東北	259	34.4%	63.3%	2.3%
関東	502	43.2%	55.0%	1.8%
中部	560	35.0%	61.8%	3.2%
近畿	287	34.5%	63.1%	2.4%
中国	169	36.1%	59.2%	4.7%
四国	109	36.7%	61.5%	1.8%
九州	211	36.5%	61.6%	1.9%
計	2,258	37.4%	60.1%	2.5%

表30 ボランティアの導入（常勤職員数別）

	N=	いる	いない	無回答
0人	180	18.3%	80.6%	1.1%
1人	259	26.3%	71.4%	2.3%
2～3人	546	27.7%	69.8%	2.6%
4～6人	486	40.9%	57.4%	1.6%
7～10人	255	49.8%	49.0%	1.2%
11～20人	217	60.4%	37.3%	2.3%
21人～	136	64.7%	33.1%	2.2%
計	2,079	38.3%	59.7%	2.0%

2008年度の博物館総合調査では、ボランティアがいるという回答が全体で34.5%であったが、今回は、さらに2.9ポイント上昇している。特に郷土系では22.5%から31.0%と8.5ポイント、理工系では47.3%から58.3%と10.6ポイントも上昇している。

地域別に見ると、北海道と関東地域で導入の割合が高い。北海道では、博物館を支援する類型の友の会が多かったこともあり、博物館を支える組織の充実が目立つ。常勤職員数別に見ると、規模の大きな博物館は導入の割合が高いが、常勤職員数が少ない館でも、ボランティアの受入が進み始めているのではないだろうか。

なお、友の会の有無と比較すると、ほぼ全ての区分でボランティアの受入の方が割合が高くなっている。友の会の方が割合が高いのは、館種別では「美術」、設置者別では「会社個人等」のみである。

## (2) ボランティアの活動内容

「1. 学芸業務（展示、資料の収集・整理・保存、調査研究に関わる業務）」「2. 来館者接遇（展示の看視、受付案内、会場整理、障害者の介添え等）」「3. 展示案内、説明、解説（展示ガイド等）」「4. イベントの企画、「友の会」や「講演会・協力会」の業務、広報活動等」「5. 環境整備（館内外の清掃、館内の美化等）」「6. 事務（一般事務の補助、刊行物の発送作業等）」「7. その他」の選択肢を挙げ、ボランティアの活動内容について複数回答で尋ねた結果は次の通り。

表31 ボランティアの活動内容（館種別） ※複数回答

	N=	学芸	来館者	展示案内	イベント企画	環境整備	事務	その他
総合	58	56.9%	41.4%	55.2%	25.9%	27.6%	8.6%	22.4%
郷土	88	29.5%	35.2%	53.4%	17.0%	30.7%	2.3%	26.1%
美術	166	24.7%	44.6%	46.4%	27.7%	24.1%	28.3%	27.1%
歴史	361	19.1%	36.3%	63.7%	26.0%	26.6%	10.5%	21.9%
自然史	43	46.5%	32.6%	55.8%	30.2%	30.2%	7.0%	23.3%
理工	60	20.0%	48.3%	63.3%	33.3%	16.7%	5.0%	28.3%
動物園	24	8.3%	66.7%	75.0%	41.7%	33.3%	4.2%	12.5%
水族館	15	26.7%	33.3%	80.0%	13.3%	20.0%	0.0%	20.0%
植物園	24	37.5%	29.2%	58.3%	12.5%	37.5%	4.2%	33.3%
動水植	5	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%
計	844	25.7%	39.2%	58.6%	25.8%	26.4%	11.8%	23.9%

表32 ボランティアの活動内容（設置者別） ※複数回答

	N=	学芸	来館者	展示案内	イベント企画	環境整備	事務	その他
国立	24	45.8%	45.8%	62.5%	33.3%	25.0%	16.7%	33.3%
都道府県立	156	32.1%	45.5%	62.2%	25.6%	25.6%	18.6%	28.8%
市立	507	22.9%	37.7%	60.7%	26.0%	25.2%	9.5%	23.5%
町村立	71	26.8%	32.4%	36.6%	21.1%	35.2%	1.4%	23.9%
公益法人等	80	23.8%	41.3%	56.3%	23.8%	28.8%	22.5%	15.0%
会社個人等	6	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	16.7%	0.0%	16.7%
計	844	25.7%	39.2%	58.6%	25.8%	26.4%	11.8%	23.9%

表33 ボランティアの活動内容（地域別） ※複数回答

	N=	学芸	来館者	展示案内	イベント企画	環境整備	事務	その他
北海道	65	38.5%	44.6%	53.8%	36.9%	32.3%	12.3%	20.0%
東北	89	23.6%	41.6%	56.2%	15.7%	31.5%	7.9%	21.3%
関東	217	24.4%	37.8%	63.1%	28.6%	20.3%	7.8%	27.2%
中部	196	24.0%	40.3%	58.2%	22.4%	31.1%	12.2%	20.4%
近畿	99	23.2%	38.4%	55.6%	26.3%	18.2%	14.1%	31.3%
中国	61	19.7%	39.3%	52.5%	24.6%	31.1%	18.0%	19.7%
四国	40	35.0%	35.0%	60.0%	35.0%	30.0%	20.0%	22.5%
九州	77	28.6%	36.4%	62.3%	24.7%	26.0%	14.3%	24.7%
計	844	25.7%	39.2%	58.6%	25.8%	26.4%	11.8%	23.9%

表34 ボランティアの活動内容（常勤職員数別） ※複数回答

	N=	学芸	来館者	展示案内	イベント企画	環境整備	事務	その他
0人	33	18.2%	27.3%	54.5%	9.1%	36.4%	12.1%	15.2%
1人	68	22.1%	33.8%	61.8%	26.5%	32.4%	7.4%	17.6%
2～3人	151	27.8%	33.8%	45.0%	19.9%	30.5%	6.0%	23.8%
4～6人	199	22.6%	39.7%	53.8%	23.1%	28.6%	10.1%	26.1%
7～10人	127	24.4%	43.3%	66.9%	30.7%	21.3%	13.4%	26.0%
11～20人	131	31.3%	44.3%	61.1%	22.9%	15.3%	20.6%	29.0%
21人～	88	28.4%	45.5%	79.5%	40.9%	25.0%	12.5%	21.6%
計	797	25.7%	39.5%	59.0%	25.3%	25.8%	11.7%	24.5%

ボランティアの活動内容については、館種別に見ると、「総合」と「自然史」は学芸業務の割合が高い。「美術」では他の館種と比して展示案内の割合が低く、一方、事務の割合が高くなっている。

設置者別では、「公益法人等」で事務の割合が高くなっている。

地域別では、北海道で、学芸業務の割合が高い。

常勤職員数で見ると、常勤職員数が多いほど、すなわち博物館の規模が大きいほど、全体的に割合が高くなっており、多様な業務でボランティアが活動している傾向が明らかとなった。一方、常勤職員数が0人の館では、環境整備の割合が比較的高くなっている。

### (3) ボランティアの導入と友の会の状況

友の会の類型ごとにボランティアの受入状況を集計した結果が次表である。

表35 ボランティア導入状況（友の会類型別）

	N=	いる	いない	無回答
自主的な学習	177	50.8%	48.6%	0.6%
博物館の事業支援	111	60.4%	39.6%	0.0%
教育普及事業参加	35	40.0%	60.0%	0.0%
継続的に利用	196	52.0%	47.4%	0.5%
計	519	52.6%	47.0%	0.4%

博物館の事業を支援する類型の友の会がある博物館では、ボランティアの導入の割合が若干高くなっており、単純に見ると、比較的類似の組織が併存しているとも解釈できる結果となっている。

## 5 おわりに

博物館の友の会、ボランティアとも、日本の博物館界ではすでに長い歴史を持つと言ってよい。しかし、例えば「友の会」という言葉でくくられながらも、その姿は多様である。

友の会の運営の面では、自律的な活動を行う組織の形態を持つものが一つの極だとするならば、もう一つの極は博物館側がサービス提供のために設けた制度ということができよう。そして組織の形態を持つものの中でも、会員の自主的な学習を中心に据えたものから、博物館の事業を支援するものとの間で、スペクトラムのように多様な姿のものが存在する。

表36 友の会の類型（常勤職員数別）

	N=	自主学習	博物館の 事業支援	教育普及 事業参加	継続的に 利用
0人	180	4.4%	3.3%	0.0%	0.0%
1人	259	4.6%	4.6%	0.4%	3.9%
2～3人	546	5.9%	6.0%	1.6%	4.9%
4～6人	486	9.5%	5.1%	1.9%	9.9%
7～10人	255	10.6%	3.9%	1.2%	12.9%
11～20人	217	12.9%	7.8%	1.4%	17.1%
21人～	136	12.5%	2.9%	4.4%	23.5%

表37 友の会の類型（地域別）

	N=	自主学習	博物館の 事業支援	教育普及 事業参加	継続的に 利用
北海道	161	8.1%	11.8%	1.9%	2.5%
東北	259	5.4%	5.0%	1.5%	6.9%
関東	502	9.8%	2.8%	1.2%	8.2%
中部	560	8.4%	6.6%	2.0%	9.6%
近畿	287	9.8%	2.8%	1.7%	10.5%
中国	169	6.5%	5.9%	1.2%	12.4%
四国	109	2.8%	2.8%	2.8%	11.9%
九州	211	5.7%	3.3%	0.5%	7.1%

今回の調査では、小規模館においては、友の会のある割合は比較的低いものの、友の会が存在する館の中では、博物館支援型の組織の割合が高くなっている。友の会のない博物館も含めた全体の割合（表36）で見ても、事業支援型の組織は、博物館の規模にかかわらず一定以上の値を示した。

国や地方自治体等の行財政見直しが各地で行われ、それとともに、公立博物館の予算等を含め、公的セクターから博物館への支援が減少し、博物館での人員、予算等の経営資源が減少しつつある中、博物館事業支援型の友の会がそれをカバーするために増加することは、単純に喜ぶべきことではないであろう。

しかし、市民が博物館の事業を支援するというかたちで市民が博物館活動の主要な担い手の一つとなる、あるいは逆にみると、地域の市民の営みの中に博物館の活動や博物館の組織が包摂されていく、そのようにして市民・地域社会と博物館がお互いに両者を認識し包摂するような関係が深まっていくのであれば、博物館の充実に向け、友の会の可能性はより大きくなるであろう。

友の会について、類型というかたちで統計的な調査、分析を行ったのは初めてであり、今回は定量的な経年変化を見ることはできなかったが、友の会の多様性を明らかにしつつ、市民と博物館の関係を見ていくためにも、今後も継続的に調査が行われることを期待する。

なお、分析の中で、北海道では、特に博物館支援型の組織の割合が高かった。友の会のない博物館も含めた全体の割合（表37）で見ても、その傾向は明らかである。その要因が経済的なものか、社会的なものか、あるいは歴史的なことによるのか、本稿では分析できなかったが、今後の課題としたい。また、友の会の多様性を示す切り口のの一つとして、友の会の会報についても、今後分析の余地があると考えられる。

ボランティアについても、ボランティア、サポートスタッフ、ミュージアムパートナー、はしかけ等、多様な名称、多様な活動のものが存在する。博物館において、友の会よりも後発の制度、あるいは概念であると認識しているが、ほとんどすべての館種、設置者において、友の会よりも導入割合は高くなっており、また、多様化も進んでいると思われる。

ボランティア導入館がこのように増加し、そして博物館支援型の友の会の中にもボランティアとほぼ同様のものがあることを考えると、おそらく、現在ではもう、半数程度の博物館で、賃金を受けず、博物館を支援する人々が存在しているのではないかと考える。

博物館は、資料を収集保存し、継承し、あるいはそれらの資料を活用して社会にサービスする機関であり、その担い手は学芸員、その他の職員であると想定し、様々な議論が行われてきた。しかし、すでに半数程度の博物館で、賃金を受けていない人々が博物館活動の担い手として参加してきているのである。

今後、博物館について議論を行う一まさに、全国博物館大会などという機会もあるが一際に、果たして博物館の職員だけで議論をしていいのだろうか。さらに広範な担い手が議論に参加し、博物館活動を考えていった方がよいのではないかと考える所以である。